

事後調査

平成18年度採用（Ⅱ種行政）

調査部 統括調査官付 調査官（調査第6部門担当）

税関を志望したきっかけ

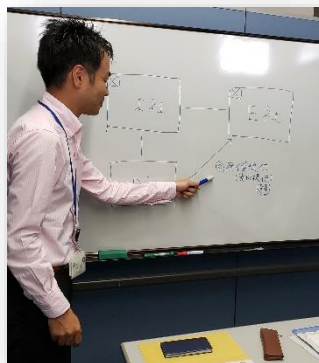
税関業務と言えば「空港の検査官」というイメージだったのですが、調べていく中で、業務内容が多岐にわたることを知り、様々な経験を積むことにより自分自身の成長につながるのではないかと考えました。さらに、違法薬物の鑑定や大型X線装置を使用した検査などの業務もあり、理系の自分が持つ知識が「日本の安全・安心を守る」ことに役立てられるのではないかと考えたことが、税関を志望したきっかけです。

現在従事している仕事の内容、やりがい、税関の魅力

現在は、輸入事後調査の仕事をしています。輸入事後調査は、輸入者が海外から貨物を輸入する際に税関に申告した内容が適正であったかを事後的に確認する税務調査であり、輸入者の事務所に赴き会計帳簿や保存書類などをチェックし、申告した内容に誤りがあれば是正を求めるとというのが主な業務内容になります。

適正に申告・納税している輸入者とそうでない輸入者がいれば、納税者間で不公平感が生じてしまいますので、そうならないようにすべく、日々「適正かつ公平な税の徴収」という税の徴収官庁としての使命を全うする今の仕事にやりがいを感じています。

なお、立入先での調査は限られた人員と日数で行う必要がありますので、調査前には同行する職員同士でミーティングを行い、輸入者の輸出入実績を分析するとともに、どのような申告内容の誤りが想定されるのかを事前に見定めておくことにより効率的な調査が行えるように準備します。また、合わせて、経験豊富な上司からアドバイスを受けることもでき、とても勉強になることが多いです。



税関では、概ね2～3年に一度人事異動により担当する業務が変わることが多く、初めての職場に異動する場合は不安に思うこともありますが、ほとんどの部署で、ベテラン職員、中堅職員、若手職員がバランスよく配置されていて相談しやすい環境が整っていますし、さらに、初任者に対する研修制度が充実していますので、様々な部署を経験することにより自然とスキルアップにつながるのも税関の魅力だと考えています。



受験生へのメッセージ

数ある官公庁からひとつの就職先を決めるのは大変なことだと思いますし、私自身、とても悩んだことを覚えています。私の場合、最後の決め手になったのは、実際に税関の職場を見て、また、税関で働いている職員と話をして、「ここで働きたい」、「この人たちと仕事をしてみたい」と思えたことです。

皆さんの中にはすでに希望の官公庁を絞り込まれている方もいらっしゃると思いますが、少しでも興味を持ったところには可能な限り訪問してみることをお勧めします。パンフレットやHPの情報とはまた違った印象を持つようになるかも知れません。そして、その中から最終的に神戸税関を選んでもらえると非常に嬉しく思います。

